

5年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習漢字の定着を図る必要がある。</li> <li>自分の伝えたいことを明確にして文章にまとめたり、筋道の通った文章となるように文章の構成を考えたりすることに課題がある。</li> <li>互いの立場や意図を明確にしながら言葉を選び、話し合う力を伸ばしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>副教材等を活用し、毎日の家庭学習で練習を重ねる。チャレンジタイムの時間等に、小テストで自己の実態を把握し、学習方法を改善する力を養う。</li> <li>文章を作る際の根拠となるキーワードや一文を確認することで、要点を押さえて書くことができるよう指導する。書いた文章を仲間と推敲しながら改善していく時間を確保するなど、書いた文章について全体の構成を考える学習を行う。</li> <li>対話的な学びの場面を適宜設定し、考えを伝える経験を積む。コミュニケーションタイム等を活用し、良好な関係の基で言葉遣いを学んでいく。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の産業の現状について理解し、そのことから考えたことを言語化し、表現することに課題がある。</li> <li>様々な資料から読み取ったことを整理し、分かったことを結び付けて考える力を伸ばしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題について、調べてまとめた内容を伝え合ったり、発表したりする活動を適宜取り入れる。グループでの発表を行うことで、誰もが発表経験を積めるようにする。</li> <li>資料や動画、写真等から気付いたことを仲間と交流する活動を随時行う。自分の考えと比較したり新たな視点を得たりすることで、それらを結び付けて考えられるように指導する。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数のわり算の余りを出す計算や、概数で求める計算に課題がある。</li> <li>なぜそのような式になるのかといった、概念的知識の獲得や必要性を感じる手だてを講じる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャレンジタイム等の時間を活用し、習熟を図る。計算を丁寧に行う意識を付けるため、ノート指導を丁寧に行う。</li> <li>公式等をただ暗記するのではなく、なぜそのようなものかを考え、意見を交流する場面を設ける。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>予想や仮説を基に解決の方法を発想したり、条件を制御しながら適切に器具を使って調べたりすることに対して課題がある。</li> <li>時間の経過や変化の様子など、結果と関係付けて考えたことを言語化し、表現する力を伸ばす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>根拠のある予想や仮説を基に、解決方法について話し合う場を設ける。条件を確認しながら観察や実験を行い、正しい器具の取り扱い方を身に付けられるように指導する。</li> <li>実験結果から分かったことを整理しながら考察したり、グループで話し合ったりする活動を行っていく。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞では、音楽を形づくっている要素をもとに聴き取ったことと、自分が感じたことを関わらせて、曲全体を捉える力を伸ばしていく必要がある。</li> <li>思いや意図をもって表現するために必要な技能、互いの声や音、全体の響きを聴きながら合わせる技能を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何について聴き取ったのか、そして聴き取ったことに対してどう感じるのか等、グループや全体で話し合いながら、自分の考えをまとめる活動を繰り返し行う。</li> <li>それぞれのパートの役割を理解し、どのように音や声を響かせたらよいかを考えながら、聴き合って音を重ねる体験を積み重ねる。</li> </ul>	
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい道具や技法に対して興味、関心が高いが、既習した技法を他の題材に生かせる手だてを講じる必要がある。</li> <li>作品を丁寧に仕上げ、題材のめあてを深めていくことに課題がある。作品をよりよくしようとする意欲を育てる必要がある。</li> <li>それぞれの材料に適した接着方法を選ぶなど、道具を使い分ける力を育てる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入時、既習の技法を具体例とともに確認し、新たな道具、技法、素材との出会いの時間を確保し体験活動を増やす。</li> <li>授業の進行に合わせて、描画材や材料を追加することで、作品の幅が広がるようにする。</li> <li>個別に言葉をかけたり、模範となる活動を価値付けて広めたりすることで、自己の課題に応じた道具の選択を行えるようにする。</li> </ul>	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>裁縫では、針と糸を使って、様々な縫い方を習得することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実技では視聴覚教材や大型教具を活用する。グループ学習を実施したり繰り返し課題に取り組んだりすることで、基本的な技能の習得を図る。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら課題を把握し、解決方法を選択する力を身に付ける必要がある。</li> <li>課題の解決方法や自らの考え等をわかりやすく伝えるために、表現力を伸ばしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な学習資料を提示したり、協働的な学びを展開したりする中で、課題解決能力を高めていく。</li> <li>ペアやトリオ、チーム等で学習活動を振り返る時間を設けると共に、考えたことをノートに記す活動を実践する。</li> </ul>	